



イースターが遅く訪れる春は、桜の花が長く咲くのだそうです。そのとおり、学園前の桜並木は今年も花吹雪で新しい仲間たちの到着をやさしく迎えてくれました。シュタイナー教育が生まれて 100 周年を迎えるこの年。この場所に集うことの意味を一人ひとりがあらためて心に刻みながら、新しい旅がまた始まりました。

【2019 年度入学式】



「桜と風がダンスしてるよ！」と、バスの車窓から指を指し、ニコニコと私にそれを伝えてくれた息子、この度、横浜シュタイナー学園に入学しました。

入学式の当日、まるで映画のワンシーンのように美しく広がる青い空には、淡いピンク色の桜の花びらが舞い、新しい始まりを祝ってくれているかのようでした。

息子はいままで近所の保育園に通っていたため、殆どのお友達は公立の小学校へ入学。

保育園のお友達と同じ学校に行きたがるのかな？と親としては少し不安もありましたが、見学会などで親しみが湧いていたのか？それとも、もともとのこのご縁を本人が知っていたのか？息子にとっては「当たり前」のような感覚で入学式を迎えたように感じます。

親の私たちと言えば、茶話会で数名のお母様から入学前に整えておくとい環境のお話などを伺っていたので、それを秋頃から実践していました。

睡眠の時間を大切にしていくことや、メディア（主にテレビ）から離していくことなど、色々ありましたが、驚いたことに、ちょっとした工夫で子供はその環境にあっという間に適応していくのですね。

逆を言えば、大人の私たちの感覚を変えていくことの方が、時間が必要となったかもしれません。

こうして入学前から始まった我が家の中でのシュタイナー教育でしたが、いよいよ息子が 1 日の大半を過ごす「学校」でそれが始まります。

入学式は、その第一歩。

温もりの溢れた柔らかな木の扉を開けると、優しい音色が耳に届きます。

案内されたお部屋を覗くと、ライアーを在校生のお母様方たちが演奏しています。

式が始まるまでの時間は、新一年生のみんなやご家族の方々と共に、優しい陽が射すお部屋でライアーの優しい音色に包まれて過ごし、待ちました。

息子はというと、私に寄りかかり、べったりくっついていきます。

ほらまっすぐ座るのよ、なんて言う発想もなくなるほど、優しい時間…、ずっとそうしていたくなるような感覚になりました。

式は、春らしい可愛いお花たちが生けられた別室でありました。

親や先生たちは、この日のために練習を重ねた朗読や歌を子供たちに届けます。

これから 9 年間一緒に過ごすクラスの担任の先生との出会いもあります。

前の日の夜、息子と男の先生かな？女の先生かな？なんて話しながら眠りについたこともあり、その出会いの瞬間に 2 人で顔を見合わせて微笑みました。

新一年生は、1 人ずつ名前を呼ばれ前に出ます。

みんな喜びと緊張の入り混じったような、高揚した顔が印象的です。

さて、この子供達がこれからいつも「希望」を抱けるような生活を、私たち大人も一緒に創造していく生活が始まるのね、と、子供たちの顔を見てあらためて感じました。

100 周年を迎えるシュタイナー教育に、心から感謝をするとともに、また私たちらしさ、をいつも感じ捉えながら、この新一年生のクラスのみならず共に、そして、学園の皆様と共に歩んでいけたらと思っています。

心からご縁に感謝し、どうぞ、よろしくお願い致します。

(1 年保護者 上野淑徳)

【今年シュタイナー学校創立 100 周年】

ドイツで始まったシュタイナー教育は、2019 年 9 月 19 日、100 周年を迎えます。

今年の 8 月には、渋谷区文化総合センター大和田にて、「世界がかわる学び」と題して、持続可能な教育を体験できる 3 日間のイベントが開催されます。これまでの 100 年。そしてこれからの 100 年に思いを向けて、横浜シュタイナー学園設立から携わる教員による寄稿です。

1919 年 9 月のことです。ドイツ、シュトゥットガルトにあったたばこ工場の建物で、ひとつの学校が誕生しました。当時、軍事力を使ってヨーロッパに君臨しようとしたドイツの夢は、第一次世界対戦で敗れたことで打ち砕かれ、国中が意気消沈していました。

「これからの社会を創るのは、軍事力ではない。人間そのものだ。我々は、人間の本质に合った教育方法で未来の社会を創造する力を持った子どもたちを育てるべきだ。」暗い闇夜にろうそくの火を灯すようなこの言葉でルドルフ・シュタイナーは賛同者を集め、世界最初のシュタイナー学校「自由ヴァルドルフ（シュタイナー）学校」が始まりました。

ドイツでは伝統的な徒弟制度が根強く残っていた為、当時は男女がひとつの教室で学ぶことや、職業の違う家庭の子どもたちが同じ学校に通うこと自体が珍しかったようです。しかし、見た目にも画期的だったこの学校の本当の革新的な部分は、その教育理念にありました。それは、人間の本质を見抜き、本质に合った教育を施すことです。「人間の成長、発達には普遍的な順序と適切な期間がある」と説いたシュタイナーの人間観に基づいた教育方法は、ドイツのみならず世界中の子どもたちに通用しました。また、根本的な理念を押さえた上で、それぞれの国の文化に沿ったカリキュラムを創造することが可能でした。それがこの 100 年間でシュタイナー学校が広がり、今や世界各地に 1000 校以上が存在している理由だと思えます。



シュタイナー学校創立 100 周年を記念したさまざまな動きがあります。世界中のシュタイナー学校が手を繋ぐプロジェクト（全世界葉書交換プロジェクトは今も進行中）や日本中の学校が協力して行うプロジェクト（8 月 16 日～18 日の渋谷でのイベントを中心に数々あります）のほか、個人的に世界各国のシュタイナー学校を

訪問することに挑戦している人たちもいますから、今年は海外からの訪問客が増えるかもしれません。

横浜シュタイナー学園では、12 名の教員が「最初のシュタイナー学校」で 9 月に開催される世界的な教員会議に参加する予定です。10 月には報告会を開き、学びを分かち合いたいと思います。

学内ではこの機会にシュタイナー教育に対する思いや考えを深めていこう、と保護者の有志の皆さんがプロジェクトを立ち上げ、さまざまなイベントが計画されています。



100 年前にシュタイナー学校が創立された理由をそのまま現代や未来への課題に当てはめることはできないでしょう。しかし、今、人間存在に危機が訪れているという意味では、100 年前の世界と似ているのではないのでしょうか。機械化、合理化が著しく進み、「AI が人間を超えた」などと言われる時代であるからこそ、人間とは何かを問い直し、人が人を育てることの意味を考える必要があるのではないのでしょうか。

2019 年は、これまで 100 年続いてきたシュタイナー教育の歩みを振り返るだけでなく、次の 100 年に向けて人間存在の本質を見つめ、変貌しつつ歩んでいく可能性を探る年にしたいと思います。

（一期、六期生担任 長井麻美）

【横浜シュタイナー学園の長期休み学童保育の本格稼働に向けて】

学園では、両親ともに働いているなど、「様々な背景を持つ家庭のお子さんにもシュタイナー教育を受けて欲しい」という思いから、長期休み中の学童保育を始めました。また、これまで保護者有志で運営してきた放課後の「ペレの家」も学校の事業となり、子どもの居場所づくりの充実を目指していきます。春休みに行った保育の様子を、保育指導員からお伝えします。

.....



2017年度に立ち上がった放課後の居場所プロジェクトでは、2018年の夏、冬、2019年の春と、3回の長期休暇中の長時間保育を試験的に実施しました。これは、横浜シュタイナー学園で本格的な学童保育の活動をつくっていくことを見据えて取り組んだものです。春の保育は、これまででいちばん長く、3週間にわたりました。毎日、1年生から4年生まで約10名の参加がありました。

毎日の活動には、手仕事の日、おやつ作りの日（週3日）、校外活動の日を設定しました。手仕事の日は、主に毛糸を使ったリリアン編みの紐を組み合わせて、ペンケースや箸入れ、ポシェットや座布団など、いろいろな作品をつくりました。毎回2時間近くも子どもたちは集中し、リラックスしたムードながらどんどん作品が出来ていくのは、さすがシュタイナー学校の子どもたちと感心しました。おやつ作りでは、おにぎり、鈴カステラをつくりました。子どもたちは、準備から片付けまで、おやつ作りの作業を楽しんでいました。最初は、よく手を洗わずにおにぎりを握り茶色いおにぎりができたりした子もいましたが（笑）、後半はみんな慣れた手つきでおやつ作りに集中していました。校外活動の日は、子どもたちに遊びを提供する地域のシニアグループである遊学舎さんに協力をお願いし、にいほる里山交流センターのつどいの家で竹とんぼとフクロウ笛をつくりました。自分の作品をつくって満足した子どもたちは、遊学舎のおじさん5人に朝の会で歌った「春の小川」をプレゼントし、とてもよい雰囲気だったそうです。また、新治市民の森で活動する日には、田んぼの用水路で小エビを捕まえるなど、子どもたちは生き物と関わることに夢中になり、帰りが遅くなってしまうほどでした。

今回の3週間を振り返ると、喧嘩もありましたが、子どもたちは皆家族のようにまとまり、安心して過ごすことができました。この子どもたちを安心して見守ることができたのは、外部から新しい指導員2名をお迎えできたこと、いざというときのためのサポート要員として保護者や先生が毎日1名控えていて下さったことは大きかったと思います。また、卒業生や高学年生徒のボランティアサポーターが時折遊びに入ってくれたのも、子どもたちには嬉しいことでした。このような安心できる態勢のもとで、子どもたちは皆生き生きと輝いて活動することができました。大きな事故もなく、充実した3週間を終えることができ、嬉しく思っています。

今年度から、子どもたちの放課後と長期休み中の居場所をとともに考えるプロジェクトは「活動グループペレの家」として学園の事業のひとつとして位置づけられました。子どもたちにとっても指導員にとっても、毎日9時間に及ぶ保育活動を続けることはたいへんな面もあります。次回の2ヶ月弱に及ぶ夏休み長期保育を安心して実現できる態勢づくりに向けて、プロジェクトメンバーが話し合いを重ねています。横浜シュタイナー学園らしい豊かで生き生きとした子どもたちの居場所づくりをつくっていきたいと思います。ぜひ応援して下さい。

（放課後の居場所プロジェクト 7年保護者

佐藤江利砂・キャサリン）



インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～



2020 年度入学説明会

- 【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容について」
- 【B】「保護者の学園への関わりについて」

※A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

- 6/22 (土) 入学説明会 A
- 6/29 (土) 入学説明会 B
- 9/14 (土) 入学説明会 A
- 9/21 (土) 入学説明会 B
- 9/22 (日) 入学説明会 A
- 9/29 (日) 入学説明会 B

詳細は学園 WEB サイトをご覧ください。

2019 オープンデー&学園祭 「今こそ、教育をえらぼう」

6月15日(土) 10:00～15:00

日頃、当学園で行っている教育や教室の様子、子どもたちの作品などを公開する『オープンデー』を霧が丘校舎にて開催します。

十日市場校舎では高学年による『学園祭』を同時開催します。学園祭は、すべて7,8,9年生による手作りの企画です。

ぜひ、両校舎ともに足を運んでみてください。
詳細は、学園 WEB サイトをご覧ください。

連続講座

シュタイナー学校を知りたい①

「親子体験 オイリュトミー」

日時：2019年5月12日(日) 10:00～12:00

会場：霧が丘校舎

参加費：全4回/5,000円(NPO会員 4,500円)
1回/1,500円(NPO会員 1,300円)

4回連続講座ですが、単発でもご参加いただけます。

定員：親子20組

対象年齢：年中～小2まで

(それ以外のお子様はご参加できません)

校内見学会

学園の雰囲気を感じていただける機会として、校内見学会を実施しております。

教室など校舎内を教員・事務員がご案内します。

日時：5月17日(金) 15:30～1時間半ほど

会場：霧が丘校舎

参加無料(要予約)

お子様連れ可です。

※ お子様の上履きをご持参ください。

ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。
(順不同・敬称略)

◎ ご寄付・・・ペレの家、小林真紀子、金田治子、水野徳子、小澤昌弘、荒木美知子、花岡風子、室恵子、星の金貨、

心より感謝申し上げます。

☆ 星の金貨より ☆

スクールショップ星の金貨は公開講座や各種催しの際はもちろん、平日の学園の開いている時でしたら、どなたでもご利用いただけます。お気軽にお立ち寄りください。事務室にお声掛けください。

お問い合わせ e-mail: hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セブンイレブン店)当座013702

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第120号～

2019年4月23日発行

編集： 広報の会

発行： NPO法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします